

企画名： 「ヒバクシャからのメッセージ」
実施日時： 2012年1月14日（土）13：00～14：30
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 4F 416+417
登壇者： 浅野、兒玉、高倉、田中、増川、森田
参加人数： 30名
文責： 藤田美保（ピースポートおりづるプロジェクト）

ピースポートおりづるプロジェクトは、脱原発世界会議において“核”の中で平和的利用と考えられてきた原発と、悪と考えられてきた原爆（核兵器）の関連性に着目した。そこで、核時代の始まりと言われる66年前のヒロシマ・ナガサキでの原爆の被爆者と“核”について話し合え理解を深められるような企画を実施した。

企画を行うにあたり、ピースポートおりづるプロジェクトの紹介、世界各地で被爆証言を行うことの重要性をプレゼンした。その後、ピースポートおりづるプロジェクト「ヒバクシャ地球一周証言の航海」参加被爆者6名をゲストとして迎え、一人当たり5分程度で原爆体験と島第一原発事故を受けて原発に対する考えがどのように変化したか報告してもらった。原爆の放射能による遺伝子変異を説明する被爆者や、「勉強不足だった」など反省の言葉とともに核被害を繰り返さない決意を述べる被爆者がいた。そして、後半40分を使い、被爆者と参加者が混ざった6～7人のグループに分け、グループディスカッションを行った。原爆による放射線が自分だけではなく子どもにも影響を与えてきたこと、被爆者に対して差別があったことなどが話題にあがった。参加者からも積極的に質問や意見交換がなされ、活発なディスカッションが行われたと思う。

今企画には、10代学生から被爆者と同世代まで幅広い年齢層の人々が参加した。グループディスカッションの時間が少々短かったものの、参加者から「もっと被爆者の話を聞きたい」「放射能や核に対する正しい知識をつけたい」という声が多く上がり、参加者にとって貴重な経験になったと思う。実際に、イベント終了後にロビーなどで個別で被爆者と話す参加者がいるなど、被爆者と参加者の交流の場にもなった。また、「初めて生の被爆体験を聞いた」という参加者も多く、被爆国日本でありながらも被爆者の話を聞く機会が減っていることを再認識した。4度目の被爆を経験して岐路に立っている今こそ被爆者の人の声が重要であり、ピースポートおりづるプロジェクトは、被爆者による証言活動や被爆者と被爆を経験していない市民との交流を日本国内においても積極的に行っていきたい。

